

簿記論 第75回 第1問～第3問

当スクールでは大部分の専門学校の模範解答は本試験の現場では書けるはずがないという前提で、合格者の平均的な記述を想定して記載しています。ご了承ください。ちなみに、専門校では3～5人の人数で参考書籍をみながら時間をかけて解き、さらに打合せをして解答を決定しているようです。

<講評>

各専門校の講評や SNS などをもても今回は難易度が高かったと思われます。本試験独特のプレッシャーも考えると 56 点以上の得点をたたきだす受験生が 10%以上いるとは考えにくい。特にここ最近では受験資格の緩和もあり、腕試しで受験した人も相当程度いたことが推定される。

最近の簿記論は財務諸表論と同様に粗点で 60 点以上あった場合は合格させる方針であろうと推察される。理由としては 2022 年の合格率 23% のように難易度が低い場合は合格率があがっていることにある。

今年の試験で 60 点以上の受験者は 17.4% 以下（というか数%）であることは推察できます。したがって素点で 17.4% 以上はないものと思われ、結果的に傾斜採点で 17% 前後の合格率に落ち着くのではないだろうか。。

Z-75-A (第 一 問)					
(簿記論)					
①	①	570,000	②	①	1,330,000
③	①	100	④	①	60
⑤	①	2,000,000	⑥	①	20
⑦	①	160			
⑧		け	⑨		14,400 ①
⑩	①	1,493,000			
⑪		き	⑫		523,300 ①
⑬		け	⑭		157,800 ①
⑮	①	2,856,000			
⑯		そ	⑰		288,000 ①
⑱		か	⑲		30,000 ①
⑳		と	㉑		71,100 ①
㉒	①	2,400,000	㉓	①	23,250
㉔	①	5,000	㉕	①	1,936,000
㉖	①	540,000	㉗	①	1,300,000
㉘	②	1,200,000	㉙	①	279,900
㉚	①	3,984,950			

基本的な問題が多いので、ここはしっかり得点を稼ぎたい

㉓以降は少し難しいので ㉒ まででしっかり得点を重ねる必要があります。

赤は 19 点分だが実際にはケアレスもあるので 15 点とれば Good !

学校	T A C	大原	N S	会計アカデミー
ボーダ予想	14~17	14~17	15	15

Z-75-A (第 二 問)

(簿記論)

問1

(単位：円)

記号			金額		
①	①	い	②	①	660,000
③	①	せ	④	①	484,000
			⑤	①	324,000
⑥	①	お	⑦	①	460,000
			⑧	①	1,060,000
⑨	①	う	⑩	①	320,000
			⑪	①	400,000
			⑫	①	310,000

問2

(単位：円)

記号			金額		
			⑬	②	6,494,554,720
			⑭	②	196,740
⑮	①	こ	⑯	②	4,560
⑰	①	い	⑱	②	54,720
⑲	①	こ	⑳	②	156,060

ここは各校評価が分かれるところでしょう。

答練で企業結合を出題しているところは問1に重点、ストックオプションを出題しているところは問2に重点でしょう。ただ答練で出しているからと言って、本試験で出題されるとは限りません。ただ日商1級経験者なら問1はかなり高得点めざせると思います
が何%くらいいるかですね。

赤は18点ですが、現実には12点くらいとればOKだと思います

学校	T A C	大原	N S	会計アカデミー
ボーダ予想	13~15	14	17	12

Z-75-A 〔第 三 問〕

(簿記論)

(単位：円)

番号	金額	番号	金額
①	① 161,000	⑲	① 1,038,600
②	② 30,900,000	⑳	① 400,000
③	① 239,499,300	㉑	② 1,296,000
④	① 1,163,000,000	㉒	② 2,250,000
⑤	② 79,854,200	㉓	① 562,500
⑥	① 13,757,464	㉔	② 5,030,000
⑦	① 154,000,000	㉕	① 4,612,200
⑧	② 560,000	㉖	① 440,000
⑨	① 1,700,000	㉗	① 1,500,000
⑩	① 275,000,000	㉘	① 1,600,000
⑪	① 32,290,000	㉙	① 1,724,000,000
⑫	② 518,400	㉚	① 2,649,701
⑬	② 1,700,000	㉛	② 350,000,000
⑭	① 5,140,000	㉜	① 3,080,000
⑮	② 233,311,747	㉝	② 1,500,000
⑯	② 45,472	㉞	① 4,592,632
⑰	② 1,968,750	㉟	② 30,000
⑱	① 152,000	㊱	① 946,092

初めての出題パターンで、一瞬「何？」と戸惑ったと思いますが、閉鎖残高勘定は大原は何度も説明するので大原受講者は少し有利かもしれません。

解答用紙をみると固定資産関係が解答箇所多いので「そこで点をとってね」という意図を読み取れば、どなたでも対処できたのではないかと思います。

赤は 28 点ですが、ケアレス考えると 25 点くらいで十分でしょう。

学校	T A C	大原	N S	会計アカデミー
ボーダ予想	28~33	28~33	26	25

各校の合計ボーダ

学校	T A C	大原	N S	会計アカデミー
ボーダ予想	55~65	56~64	58	52~54

申込者と受験者の関係、および過去 6 年の合格率など

	申込者	受験者	受験率	合格者	合格率
2025	24,802	17,857	≒ 72%		
2024	?	17,711		3,078	17.4%
2023	21,335	16,093	75.43%	2,794	17.4%
2022	17,400	12,888	74.07%	2,965	23.0%
2021		11,116		1,841	16.5%
2020		10,757		2,429	22.6%
2019		11,784		2,052	17.4%
2018		11,941		1,770	14.8%
2017		12,775		1,819	14.2%
合計		105,065		18,748	17.8%

※2025 年受験者は想定

得点	人数	構成率	累計	累計
65点以上	150	0.84%	150	0.84%
60点以上	300	1.68%	450	2.52%
58~59	500	2.80%	950	5.32%
56~57	700	3.92%	1650	9.24%
54~55	1000	5.60%	2650	14.84%
52~53	1150	6.44%	3800	21.28%
50~51	1150	6.44%	4950	27.72%
49	1150	6.44%	6100	34.16%
48	1150	6.44%	7250	40.60%
47	1150	6.44%	8400	47.04%
46	1200	6.72%	9600	53.76%
45	1200	6.72%	10800	60.48%
44	1200	6.72%	12000	67.20%
43	1200	6.72%	13200	73.92%
42	1200	6.72%	14400	80.64%
42未満	3457	19.36%	17857	100.00%
合計	17857	100.00%		
	受験者	17,857		

得点分布を考えると上図のようになると思われる（あくまでも今回の問題を確認したうえでの勘です）

合格率が過去最高の 23%前後であれば

51~52 点がボーダーライン

合格率が過去 8 年の実数である 18%であれば

53~54 点がボーダー

になるのだろう

合格確実は、ここ 6 年で最低の 14.2%になった場合を想定して 56 点というところではなかろうか

結論として、合格率 18%想定 の 54 点がボーダーライン、14%想定 の 56 点が合格確実 と思われます

私の勘で作成した表なので、皆さんの方でも同様の表を作成して、模擬試験の得点分布などで構成率を変更すれば、より正確な予測数値を出せると考えます。